

## 「電子回答による授業評価と結果の完全公開」

- 特長の第1点： 3段階評価に加え「良かった点」「改善してほしい点」について具体的なコメントを書き込める点。
- 特長の第2点： 「電子回答」\*であることから、高い匿名性が保たれ忌憚のないコメントを期待できる点。
- 特長の第3点： 生物学類 HP 上に掲載されているオンライン月刊誌「つくば生物ジャーナル」\*\*にすべての評価結果を完全公表\*\*\*する点。もちろん学生のコメントに対する教員のコメントも掲載する。

(脚注)

\*電子回答：

TWINS のアンケート機能を活用する方式。「紙媒体」による授業評価に比べ回答率は下がるが以下の2点で優れている。

- ①コメントを書いても筆跡が残らないため、完全な匿名性が保たれる。
- ②その後の集計処理が極めて簡便である。

\*\*つくば生物ジャーナル：

社会に開かれた生物学類を実現するため、卒業生や退職教官、学校の先生など学外との双方向コミュニケーションの場として生物学類が HP 上で発行するオンライン月刊誌 (2002 年 9 月に創刊された。参考資料 1)。

\*\*\*完全公表：

受講生と担当教員の間で評価結果を共有するだけでなく、社会にも公開する。この完全公表の意義は授業評価を密室で行うのではなくガラス張りにすることで教員・受講生間のなれ合いを防ぎ、授業に緊張感を与えることである。ただし、大学全体で導入するには、あらかじめ注意深い試行が必要である。

### 【具体的な実施方法】

生物学類は過去 2 年間、電子回答 (TWINS) による授業評価を行い、その結果の完全公開を生物学類のオンライン月刊誌「つくば生物ジャーナル」を使って試験的に行ってきた (参考資料 2、pp320-321)。その結果、当初想定された問題や予期しなかった問題は発生しなかった。さらに授業評価を授業終了時だけでなく、授業中も行うことにより、受講生の要望を迅速にリアルタイムで次の授業に反映できるシステムが TWINS に搭載できるようになった。これらの結果も合わせて本年 4 月 20 日の生物学類教員会議で審議した結果、今年度はこのシステムを加えた形で「電子回答による授業評価と結果の完全公開」を本格的に導入することを決めた。

「電子回答による授業評価と結果の完全公開」の目的：

- (1) 学生の授業参加意識の向上
- (2) 教員の授業改善

当初想定された問題点（リスク）：

- (1) 教員を誹謗中傷するようなコメントとこれらの教員個人情報の流出
- (2) 第三者による評価結果の加工とその結果の一人歩き（ベスト 10、ワースト 10）
- (3) 学生への迎合と、個性の喪失

リスクに対する対応策：

- (1) 受講生に対し、この取組が授業改善のためであることと、完全公開を前提とすることを周知徹底し、真摯なコメントを書くよう指導した。  
教員の個人情報の自動的な流出を防ぐため授業担当教員名はシラバス特集号に掲載した。
- (2) 結果の完全公表の可否を担当教員が決定することとした。  
2年間の試行の結果、ほとんどの教員が公表を受け入れたが心配されたリスクは回避できた。
- (3) 学生への迎合、個性の喪失を避けるため評価結果を「教員の教育業績」には使わない。「教員の教育業績」は研究業績でカバーする。

将来的な対応策：

生物学類担当教員を採用する際は、上記のルールを受け入れを前提とする。

連絡先：筑波大学学群教育室長

林 純一 教授

電話 029-853-6650